中高生礼拝5月②

「万物を愛し主管しよう」

皆さん、こんにちは。

きょうは、「万物を愛し主管しよう」という題目で、説教をします。

はじめに、聖書を拝読します。

**万物は言によって成った。言によらずに成ったものは何一つなかった。言の内に成ったものは、命であった。この命は人の光であった。（『新約聖書』ヨハネによる福音書１章３-4節）**

万物が創造された目的

　みなさん、5月のゴールデンウィークは何をして過ごしましたか？友達と遊んだり、家族と出かけたり、または家でゆっくりしたりとそれぞれ様々なことをしたことと思います。ちなみに天暦の5月1日は私たちにとって大切な名節の日があります。そうです、「真の万物の日」ですね。

　今回の礼拝では、「万物を愛し主管しよう」と題して、万物をどのように愛し、主管していくべきか、ということについてお話しします。

　「万物」とは、創造主、天の父母様が造られたすべてのものを言います。では、始めに、天の父母様はなぜ万物を創造されたのでしょうか。真のお父様は「万物」について次のように語っていらっしゃいます。

**神様は、天地万物を何かの趣味で造られたのではありません。目的も方向もなく、何の理念的な内容もなく、ただ造られたわけではありません。非常に大きな目的と、大宇宙の理念をもって造られたのです。極めて微小なものから、果てしなく大きな宇宙に至るまで、すべての存在物には神様の心情に通じる理念が宿っています。このような理念をもって造られた目的とは何でしょうか。神様の愛を中心とした理念の世界、すなわち愛に通じ、愛とともに楽しみ、愛とともに生き、愛とともに死ぬという世界を目的とされたのは間違いないのです。（『天聖経』p.602）**

　このみ言にあるように、神様（天の父母様）は（天地）万物を造られるとき、大きな目的、すなわち、神様の愛で共に生きる世界を目指して創造されました。どんなに小さいものであっても、そこには神様の心情に通じる理念があると言います。

また、真のお父様はこのようなみ言も語っていらっしゃいます。

**神様が心情によって造られた天地万物を愛し、誇らなければなりません。それは、神様が愛する息子、娘が豊かに暮らせるようにするために造ってくださったものです。（『天聖経』p.650一部抜粋）**

このように（天地）万物は、私たち人間が神様（天の父母様）の愛を中心とした世界で共に生き、豊かに暮らすことができるように神様が与えてくださったプレゼントなのです。私たちの身の回りを見れば、当たり前のように存在する太陽、空気、水があってこそ、私たちは生命を維持することができます。

それだけでなく、美しい自然を見て心が癒されたことはありませんか？この世に存在するありとあらゆるものが人間の幸せのために造られたことを考えると、自然と感謝の思いが湧いてきます。

真の主人を失った万物

　しかし、そのような神様の目的も人間始祖であるアダムとエバの堕落によって叶うことができませんでした。人間始祖の堕落によって万物はどうなってしまったのでしょうか。お父様のみ言を紹介します。

**万物は、サタン世界において、サタンの子女の名をもつ存在によってサタンの主管を受けています。またサタン世界の国家に主管を受けています。これが神様の嘆息される理由であり、万物が嘆息する理由です。ですから、これを蕩減、解怨し、神側に復帰しなければなりません。そのためには、神様を中心とした神様の息子、娘が万物を主管しなければなりません。神様の前に主管を受けることを願う万物を、アダムだけでなくエバまでも主管しなければなりません。また人間の先祖、アダムとエバの子孫も、やはり一つになって万物を主管しなければなりません。（『天聖経』p.646）**

　本来、神様の子女である人間に主管を受けるべき万物がサタンの主管を受けるようになってしまったのです。このような状況を神様の視点からどう見えるでしょうか？これは本来あるべき主人が変わってしまったということになります。

　少し考えてみましょう。みなさんの大切なものを思い浮かべてください。多くの時間と労力をかけて手にした一番大切なものが気づいたら自分の手元からなくなり、自分ではない別の人が「これはわたしのものだ。」と言っていたら。そして、それを乱暴に扱い、傷つけ壊してしまったらどんな気持ちになるでしょうか。

　まさにそのような状況に立たされたのが神様であり、万物だったのです。現在、世界で起きている環境問題はまさに、堕落によって万物を正しく主管できない人間によって引き起こされたものです。また、統一原理で学ぶように堕落によって人間は万物に逆主管されるようになったことも問題の一つです。

　例えばスマートフォンやタブレット。ネット、動画、SNS、ゲーム何でもできる優れものですよね。今はスマホをもつ中高生もぐんと増えましたし、小学生から授業でタブレットを使用する学校も多いかと思います。便利な一方、使い方を間違えれば様々な問題を引き起こしてしまいます。「スマホのせいで勉強に集中できなくなり成績が下がった」、「ゲームで課金をしてお小遣いがすぐになくなった」など、スマホに逆主管されてしまうケースが多々あります。

万物を愛し主管しよう

　それでは、具体的に万物を主管するにはどうしたらよいのでしょうか？

まず第一に「万物から学ぶ」ということ。真のお父様の自叙伝を見れば、幼少期の頃、自然からたくさんの原理を学んだというお話が出てきますが、天聖経にはこのようなみ言があります。

**先生は、自然を見るたびに、神様がこのすべてのものをどのように造ったのだろうかと深く考えました。木や様々な草、葉を見ながら、これらがどのようにして造られたのかを考えれば、限りなく神秘的です。何であれ、それに対して多くの関心をもたなければなりません。それに対する内容を知ってこそ、それを主管できるのです。**

**私たちが自然のもつその本然の価値だけを知っても、言葉にできない福を受けます。そうすれば、自然が「私」を中心にして造られたという事実が分かるでしょう。しかし、人々は自然を見るすべを知りません。自然は本当に神秘的です。私たちが自然を知れば、風の音も素晴らしい音楽に聞こえます。そして、信仰生活にも非常に役立ちます。私たちの体と一番近いのが自然なのです。（『天聖経』p.597）**

このみ言には、万物がどのようにして造られたのか関心を持って見つめ、それに対する内容を知ってこそ主管できるとあります。例えば飛行機。飛行機といえば1903年、人類初の動力飛行に成功したライト兄弟が思い浮かぶでしょう。

しかし、ライト兄弟よりもはるか昔に鳥が飛ぶ原理を発見し、それを元にそのスケッチと骨組みを作った人がいたのを知っていますか？そう、『最後の晩餐』や『モナリザ』で有名なレオナルド・ダ・ヴィンチです。

　レオナルド・ダ・ヴィンチは芸術、医学、建築学、その他自然分野の多岐にわたり偉大なる業績を数多く遺しました。ダ・ヴィンチは鳥が飛ぶ様子を観察し、同時に鳥類の骨格、筋肉など解剖学的特徴を徹底的に調べました。その結果、関節を持った翼を羽ばたかせて揚力と推進力が同時に得られれば、鳥の様に自由に“空を飛べる”という結論に達したそうです。その試行錯誤の末、最終的にたどり着いたのがこのマシーンです。（写真見せる）

　このように、万物を観察し、そこから原理原則を発見して私たちの生活に適応するという例は数多くあります。今もなお研究開発が進んでいるものの一つが「痛くない注射」です。注射は大なり小なり「ちくっ」としますよね。あの痛みがない注射器を開発しようと蚊が研究の対象にされています。蚊が人間を刺すときに痛みを感じないのには理由があります。実は蚊の針は6本で構成されていて、それを上下に動かすことによって痛みを感じないようにしているのです。

こういった生物の仕組みをヒントに、製品や技術を開発することを「生態模倣」と言うそうです。まさにこれが万物主管の一つと言うことができます。このように人間と万物が一緒になって人類に福をもたらすことに神様もきっと喜ばれるのではないでしょうか。学校の勉強でも関心を持って学び続ける中で新しい発見をし、誰かの役に立つ発明をすることができるかもしれませんね。

　最後に万物を主管する際に心がけたいことは、「万物を公的なものとして大切にする」ということです。真のお父様のみ言を紹介します。

**皆さんが自分本位にもっている物は、皆さんの物ではありません。私が住んでいるその家が私の物ではなく、私が食べている御飯が私の物ではなく、私が使っているささいな日常の家の物すべてが私の物ではないというのです。これは、永遠無窮に継承できる公的な父を中心とした世界と、永久に関係を結んでいる公的な物であることを忘れてはいけません。私が着ている一着の服もそうであり、私がもっている生活基盤ももちろんであり、私がもっている体も私の物ではないというのです。（『天聖経』p.653）**

公的なものというのは、広く一般的には自分だけでないみんなのものを指します。太陽や空気、水も誰か主人が決まっているわけではなくみんなのもの、全体のものですよね。真のお父様は私たちが日常で使っているすべてが私のものではないとおっしゃっています。

それは一着の服だけでなく、時間やお金も含まれるでしょう。それらがすべて私のものではないということは、自分の家族や周りの人にも関係してきます。私の時間が自分のものではなく公的なものであるということは、私の時間を使って誰かのために何かをしてあげることもできるわけです。

家でお父さんやお母さんの手伝いをすることも、私の時間を公的に使うことになります。より誰かのため、全体のためになるように万物を使うということは私たちの生活で非常に大切なことです。そのような動機をもって万物を使う時、神様（天の父母様）が願われた愛の世界で共に生きることにつながるのではないでしょうか。

また公的なもののもうひとつの意味としては神様とより深い関係を持つものを言います。祈祷や訓読、礼拝なども私たちの生活の中では欠かせない公的なもののひとつです。

　成和学生として、万物を愛し、公的なものを大切にして、共に頑張っていきましょう。

　きょうは、「万物を愛し主管しよう」という題目で、お話ししました。

　以上で説教を終わります。ありがとうございました。